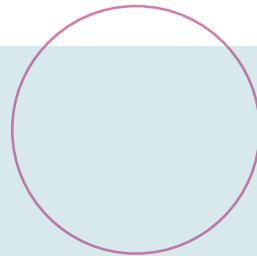
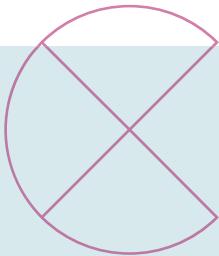
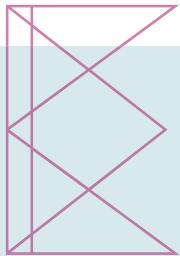


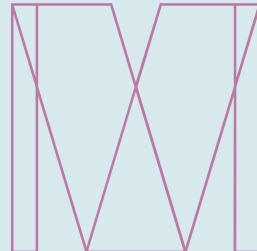
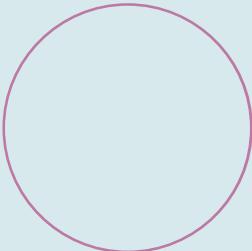
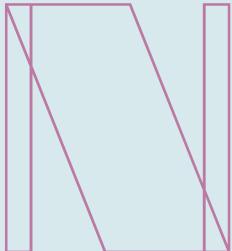
# 立命館大学大学院 経済学研究科

RITSUMEIKAN  
UNIVERSITY

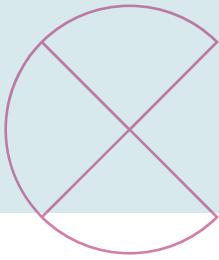
RITSUMEIKAN UNIVERSITY  
GRADUATE SCHOOL OF ECONOMICS  
2022



## Beyond Borders of



## Intellectual Community



Since its establishment in 1950, the Graduate School of Economics has produced many outstanding graduates who have entered the business world, central and local governments, and various research organizations. Located near Lake Biwa, the largest lake in Japan, the campus offers a beautiful natural environment along with the highest level of facilities and equipment. The Graduate School of Economics has nurtured as many as 50,000 students with independence and ability in business.

# 「知の共同体」の境界を越えた交流が生みだす、新たな知を求めて。

経済学研究科は、1950年に修士課程を創設し、  
1964年には博士課程（博士課程後期課程）を開設しました。  
この間、大学、有力企業、官公庁、税理士業界等に  
多くの優れた人材を輩出し、社会的に高い評価を得ています。  
「経済学の分析・調査・研究力量を有した高度専門職業人や  
研究者の養成を目指す」という理念のもと、  
前期課程および後期課程において  
それぞれ人材育成目標・教育目標を設定し、  
大学院生の研究指導を行っています。



MPEDコース修了生セミナー



Graduate School of

大学院（経済学研究科）  
進学のススメ



立命館大学 経済学研究科長  
河音 琢郎  
Takuro KAWANE

立命館大学経済学部は2018年、創設70周年を迎えるました。1948年に法学部から分離、独立しての出発でした。経済学研究科は、それに続く1950年に設置されましたので2020年に創設70周年を迎えました。経済学研究科は、この間多くの修了生を国内外の広く多様な社会に送り出してきました。現在では博士課程前期課程・後期課程を合わせると100名を超える院生がびわこ草津キャンパスで研究活動等に真摯に取り組んでいます。また、2019年度にはカリキュラム改革を実施し、地域経済・地域マネジメントコースという新たなコースを設置することにより、本研究科で学び、研究できる領域を広げました。

本研究科の特長は、優れた研究や教育実績を有する教授陣の指導のもと世界レベルの経済学を研究することができること、さらに、徹底した

少人数教育によって院生が大変高度な水準の研究成果を発信できるところにあります。本研究科で学ぶ院生が、学会等の論文コンテストで受賞することも珍しくないのはその証左でしょう。また、本研究科は、日本語コース、英語コースとともに多くの国々から留学生を迎えており、多彩な留学生とともに研究、交流することによってグローバルな知力・感性とコミュニケーション能力の向上を図ることができることも本研究科の特長といえるでしょう。

本研究科では研究テーマに併せて、①経済理論・政策、②税理・財務、③MPED (Master's Program in Economic Development 9月入学・英語基準) そして、新たに設置した④地域経済・地域マネジメントコースを含め四つのコースを設けています。2019年度から設置された地

域経済・地域マネジメントコースは、地域創生や地域貢献等を経済学という視点から研究し、地域の持続的な発展等地域に貢献できる高度専門職業人などを養成することを目標にしています。このコースは、本学はもとより他大学に先駆けて展開するものであり、多くの期待も集めています。

本研究科の特色ある四つのコースは、それぞれ経済学が抱える最前線の課題を深く研究しています。それと同時に、これら四つのコースの持つ多様性が、個々の院生の研究活動によい刺激と相互作用をもたらしています。

このような特長ある経済学研究科で学び、自らの知を磨いてみませんか。ぜひ、皆さんが経済学研究科の門を叩かれることを期待しています。

## FEATURE 01 高い研究力と国際的発信力

大学院教育の質は研究科所属教員の研究力と密接に関わっています。経済学術論文に関する世界ランキング（週刊朝日編『大学ランキング2012』）において、立命館大学は全国私大中3位にランキングされました。このランキングは、国際的な経済学術誌上位29誌にどの程度論文を掲載しているかに基づいて算出されたもので、本研究科所属教員の研究力の高さを反映しています。

## FEATURE 02 徹底した少人数教育

本研究科はコース制をとっており、各コースはピア（peer：仲間）・ラーニングのための小規模学習集団としての性格を持つとともに、全ての授業は少人数制で運営され、きめ細かな指導を受けることができます。コア科目での基礎力の養成、コース科目、コース共通科目や演習科目での専門性の向上に加え、「応用経済研究」・「Applied Economics」では、研究科所属教員の専門分野にもとづき多様な分野のテーマベースの学習をすることができます。

## FEATURE 03 英語環境で学ぶ経済学

すべての授業を英語で行うMPEDでは様々な国から来た多数の留学生が学んでいます。MPEDで開講されている科目は他コースからも履修することができ、留学生と英語でディスカッションを行なながら経済学を学ぶことができます。

## FEATURE 04 全国屈指の学術情報データベース

立命館大学のオンラインデータベースは全国屈指の規模を誇り、国内外の膨大な統計・データ、論文、雑誌・新聞記事、資料など入手できます。特に、経済・企業に関するデータが充実しており、これらのデータを使いこなすことが優れた研究成果につながります。

## FEATURE 05 大学院科目早期履修制度・ 大学院進学プログラム・飛び級入試の活用 (立命館大学学部生対象)

大学院科目早期履修制度は立命館大学の各学部在学中に大学院講義科目の幾つかを履修できる制度で、大学院進学プログラムは立命館大学経済学部在学中に大学院講義科目だけでなく演習科目も履修できる制度です。ともに大学院進学前の早い段階から高度な研究が可能となります。大学院進学プログラムは、大学院進学後に1年ないしは1年半で修士号を取得することができます。また、飛び級入試を活用すれば、立命館大学の各学部3回生修了後に大学院進学することができ、学部・大学院を合わせて最短5年間で修士号を取得することができます。

# 目指すキャリアに応じた4コース（博士課程前期課程）

前期課程では、経済学のスペシャリストの育成に重点をおく「経済理論・政策コース」、地域経済を様々な角度から分析し、地域の持続的な発展を目指すべく経済政策を立案・実行し、地域をマネジメントできるスペシャリストを養成する「地域経済・地域マネジメントコース」、公認会計士、税理士、税務・会計のスペシャリストを養成するプログラムを提供している「税理・財務コース」、全ての授業を英語で行い、国際的高度専門職業人を養成する「Master's Program in Economic Development (MPED)」（9月入学）、の4コースを設けています。さらに、高度な研究力量を備えた研究職に就くことを希望する院生は、博士課程の前期課程・後期課程（標準5年）を通じて学習や研究に励み、博士学位取得をめざします。

カリキュラム・  
プログラムの  
詳細はこち  
ら



経済理論・政策コース



経済学の理論体系を学び、さまざまな経済問題を分析・研究することで、高度な論理的思考力、問題解決能力、政策提言能力を備えた研究者および民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

## コア科目

- 社会科学概論Ⅰ④
- ミクロ経済理論Ⅱ
- 計量経済学Ⅰ
- 社会科学概論Ⅱ④
- マクロ経済理論Ⅰ
- 計量経済学Ⅱ
- ミクロ経済理論Ⅰ
- マクロ経済理論Ⅱ

## コース科目

- 経済史Ⅰ
- 経済理論Ⅰ
- 経済政策
- 経済史Ⅱ
- 経済理論Ⅱ
- 社会政策論

## コース共通科目

- 金融論
- 國際経済論
- 応用経済研究
- 経済学特論
- 國際貿易論
- インターンシップ・
- 経済発展論
- 日本経済論
- コーオブ演習(全学)
- 国際金融
- 財政学

## 演習科目

- 経済学特別演習Ⅰ
- 経済学研究演習Ⅰ
- 経済学特別演習Ⅱ
- 経済学研究演習Ⅱ

## 【履修モデル】

	コア科目	演習科目	コース科目
第1セメスター	3科目	経済学特別演習Ⅰ	3科目
第2セメスター	3科目	経済学特別演習Ⅱ	3科目
第3セメスター		経済学研究演習Ⅰ	
第4セメスター		経済学研究演習Ⅱ	



地域経済・地域マネジメントコース



経済理論を基礎に、地域経済の分析と政策立案、そして地域をマネジメントできる能力を涵養する教育を行います。困難に直面する地域経済の持続可能な発展のための政策提案ができる、現場に通じた官民の高度専門職業人を養成します。

## コア科目

- 地域政策
- 社会科学概論Ⅰ④
- マクロ経済理論Ⅰ
- 地域マネジメント論
- ミクロ経済理論Ⅰ
- マクロ経済理論Ⅱ
- 経済統計
- ミクロ経済理論Ⅱ

## コース科目

- 地域社会経済論
- 観光経済論
- 調査実習
- 地域ブランド論
- アグリビジネス論
- 社会政策論
- 地域産業研究

## コース共通科目

- 金融論
- 國際経済論
- 応用経済研究
- 経済学特論
- 国際貿易論
- インターンシップ・
- 経済発展論
- 日本経済論
- コーオブ演習(全学)
- 国際金融
- 財政学

## 演習科目

- 経済学特別演習Ⅰ
- 経済学研究演習Ⅰ
- 経済学特別演習Ⅱ
- 経済学研究演習Ⅱ

## 【履修モデル】

	コア科目	演習科目	コース科目
第1セメスター	3科目	経済学特別演習Ⅰ	3科目
第2セメスター	3科目	経済学特別演習Ⅱ	3科目
第3セメスター		経済学研究演習Ⅰ	
第4セメスター		経済学研究演習Ⅱ	

## 修了要件

修了するためには、2年以上在学し、コア系4単位以上および経済学特別演習Ⅰ、経済学特別演習Ⅱ、経済学研究演習Ⅰ、経済学研究演習Ⅱを含めて30単位以上を修得し、修士論文を提出し、それに基づく最終試験に合格しなければなりません。（MPEDの場合、コア系4単位以上およびElementary Seminar I、Elementary Seminar II、Special Seminar I、Special Seminar II）※下記科目名の後の丸数字は、単位数。記載がないものは、全て2単位



税理・財務コース



経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育てます。

## コア科目

- 税法Ⅰ
- 税法Ⅱ
- 租税制度論Ⅰ
- 租税制度論Ⅱ

## コース科目

- 國際課税Ⅰ
- 國際課税Ⅱ
- 税務各論Ⅰ
- 税務各論Ⅱ
- 租税各論Ⅰ
- インターンシップ（コース独自）
- 商法・会社法
- 税務会計
- リサーチセミナー

## コース共通科目

- 金融論
- 経済学特論
- 国際貿易論
- 日本経済論
- 国際金融
- 応用経済研究
- インターンシップ・
- コーオブ演習(全学)
- 財政学
- 国際経済論
- 国際貿易論
- 日本経済論
- 国際金融
- 国際貿易論
- インターンシップ・
- コーオブ演習(全学)
- 財政学

## 演習科目

- 経済学特別演習Ⅰ
- 経済学研究演習Ⅰ
- 経済学特別演習Ⅱ
- 経済学研究演習Ⅱ

## 【履修モデル】

	コア科目	演習科目	コース科目
第1セメスター	税法Ⅰ 租税制度論Ⅰ	経済学特別演習Ⅰ	3科目
第2セメスター	税法Ⅱ 租税制度論Ⅱ	経済学特別演習Ⅱ	3科目
第3セメスター		経済学研究演習Ⅰ	
第4セメスター		経済学研究演習Ⅱ	リサーチセミナー



Master's Program in Economic Development (MPED)



国際標準の経済学を英語のみで学ぶコース（9月入学）です。国際コミュニケーション能力を持ち、高度な論理的・実証的分析を遂行できる国際的高度専門職業人を育成します。途上国を中心に多くの国から留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

## コア科目

- Microeconomics I
- Macroeconomics I
- Econometrics I
- Microeconomics II
- Macroeconomics II
- Econometrics II

## コース科目

- Development Economics
- Environmental Economics
- International Economics
- Financial Economics
- Public Policy
- Infrastructure Development Policy
- Applied Economics
- Topics in Economics
- Internship Program
- Research Seminar I
- Japanese Economy
- International Finance
- Frontiers Internation Project Development
- Research Seminar II

## 演習科目

- Elementary Seminar I
- Special Seminar I
- Elementary Seminar II
- Special Seminar II

## 【履修モデル】

	コア科目	演習科目	コース科目
第1セメスター	Microeconomics I Macroeconomics I Econometrics I	Elementary Seminar I	3科目
第2セメスター	Microeconomics II Macroeconomics II Econometrics II	Elementary Seminar II	3科目
第3セメスター	Special Seminar I	Research Seminar I	
第4セメスター	Special Seminar II	Research Seminar II	

# カリキュラム

## 前期課程

### 演習・研究指導フロー 4月入学者（経済理論・政策コース、地域経済・地域マネジメントコース、税理・財務コース）

<b>第1セメスター (1回生春学期)</b>	4月 春セメスター授業開始、受講登録・経済学特別演習Iの担当教員発表・教員研究指導計画書を提示（指導教員） （入試時の研究計画書等をもとに決定）	
	7月末日 「研究計画・研究計画・進捗状況報告書（1）」提出（担当希望教員の調査）	
	9月中旬 春学期成績発表	
<b>第2セメスター (1回生秋学期)</b>	9月下旬 秋セメスター授業開始、経済学特別演習IIの受講 9~10月 上回生の中間報告会聽講 12月上旬 上回生の最終報告会聽講 1月末日 「研究計画・進捗状況報告書（2）」提出（2回生での研究指導希望教員の調査）	
	3月下旬 秋学期成績発表	
<b>第3セメスター (2回生春学期)</b>	4月上旬 春セメスター授業開始、受講登録・教員研究指導計画書を提示（指導教員） 4月下旬 経済学研究演習I・IIにおける研究指導教員の決定、研究指導開始 7月下旬 「研究演習レポート 兼 研究計画書」提出 9月下旬 春学期成績発表	
<b>第4セメスター (2回生秋学期)</b>	9月下旬 秋セメスター授業開始 9~10月 中間報告会の実施 12月上旬 最終報告会実施 1月中旬 《第1次提出》「修士論文」提出締め切り <sup>*1</sup> 1月末日 《最終提出》「修士論文」提出締め切り <sup>*1</sup> 2月上旬 口頭試問 3月 修了合否発表、学位授与式 「修士論文執筆状況報告書および今後の計画書」の提出 <sup>*2</sup>	
<b>第5セメスター以降 (3回生以降) *修論審査のみの日程</b>	<b>9月授与を目指す場合</b> 4・6月 中間報告会の実施、最終報告会実施 7月中旬 《第1次提出》「修士論文」提出締め切り <sup>*1</sup> 7月末日 《最終提出》「修士論文」提出締め切り <sup>*1</sup> 8月 口頭試問 9月 修了合否発表、学位授与式	<b>3月授与を目指す場合</b> 第3・第4セメスターと同様のスケジュールとなります

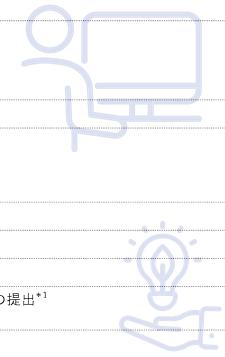


\* 1: 詳細な提出締め切り日については、manaba+Rを通じて1ヶ月前までに案内します。  
\* 2: 第5セメスター以降での学位授与を目指すのみ、回生進行の度に提出が必要です。提出期間については別途案内します。  
※博士課程前期程9月入学者の研究指導フローについては、MPEDのページに掲載しています。

## 後期課程

### 研究指導フロー

<b>第1・第2セメスター (1回生)</b>	4月上旬 研究指導教員・研究指導補助教員の決定・教員研究指導計画書を提示（指導教員） 4月～/9月～ 研究演習I・IIの受講 4月末日 「博士学位請求論文執筆計画書」提出 ※9月入学の場合は10月末までに提出 6月上旬 日本学术振興会 特別研究員DC2への出願
<b>第3・第4セメスター (2回生)</b>	4月～/9月～ 研究演習III・IVの受講・教員研究指導計画書を提示（指導教員） 4月末日 「博士学位請求論文執筆計画書」提出 6月上旬 日本学术振興会 特別研究員DC2への出願
<b>第5セメスター (3回生春学期)</b>	4月～ 研究演習Vの受講・教員研究指導計画書を提示（指導教員） 4月末日 「博士学位請求論文執筆計画書」提出 6月上旬 日本学术振興会 特別研究員DC2への出願
<b>第6セメスター (3回生秋学期)</b>	9月～ 研究演習VIの受講 ～9月末日 予備審査 ～12月15日 課程博士学位申請 12~1月 公聴会・口頭試問 ～2月末日 「博士論文執筆状況報告書および今後の研究指導計画書」の提出 <sup>*1</sup> 予備審査（翌年度9月修了の場合） 3月 博士学位授与式
<b>9月授与を目指す場合</b>	～2月末日 予備審査 4月～ 研究演習VIの受講 ～5月末日 課程博士学位申請 6~7月 公聴会・口頭試問 9月 博士学位授与式
<b>3月授与を目指す場合</b>	～9月末日 予備審査 9月～ 研究演習VIの受講 ～12月15日 課程博士学位申請 12~1月 公聴会・口頭試問 3月 博士学位授与式
<b>第7セメスター以降 (4回生以降)</b>	※ 1: 第7セメスター以降での学位授与を目指すのみ、回生進行の度に提出が必要です。



## 過去の修士論文テーマ（例）

### 〔経済理論・政策コース〕

CBDCの導入しない実験の背景とその経済的目的
金融包摂達成に向けたCBDCの持つ役割～
ハードウェア・ソフトウェア・プラットフォーム市場における製品差別化の研究
日本中の付加価値貿易における経済関係
日本における石油価格と株価指数を以てレートの相関関係
中国におけるケルム集集食品に対する消費者選好分析
中国における地域住民の年金保険制度改変に関する研究－上海市を事例に－
日本の外国人労働者問題～新しい在留資格、技能実習生、留学生を中心に～
日本の情報サービス産業の技術変化についての実証分析
中国工作機械企業の所有・経営改革とプラットフォーム化－瀧陽機械集団から見る－
日本においてユニーク日の競争優位性の数量分析
中国における年金制度の問題点と今後の課題についての研究－日本の経験を参考に－
中国の少子化問題に関する実証研究－パネルデータによる分析

### 〔地域経済・地域マネジメントコース〕

地方公共団体による中小企業のIT化支援策に関するモデルケースの検証
－広島県「ひらしまサードボックス」事業を事例に－
地域経済の活性化における新たな食としての昆蟲食の可能性
－伝統的な食文化である昆蟲食が現代に受け入れられる要因分析－
農泊事業によるソーシャル・キャビタル形成とまちづくり意識向上の構造分析
－滋賀県蒲生郡野町の「近江日野田舎体験」を事例に－
中国における農村宅地制度改善に関する研究－成都市を事例に－
少子高齢化時代の介護保険制度におけるコミュニティケアのあり方
－日本と中国の比較分析を通じて
浙江省と東南省における都市・農村間所得格差の分析
－空間・ペルルモデルの適用から
中国での生活由来廃プラスチック回収を促進する要因に関する考察
排出権取引制度による中国・製紙産業の水質汚濁物質排出削減効果に関する実証研究
中国深セン市の産業集積による生じた土地不足問題に関する研究
－バーナルデータに基づいた実証分析－

### 〔税理・財務コース〕

わが国投資信託の規制条約適用に関する一考察
－ARFF 参加に伴う観点を中心にして
キャブティブとの保険取引における課税問題
～非開通者か介在する保険取引を中心～
組合員なる地位の保護にかかる課税問題
グループ課税制度における法人株式の課税問題
～二重課税及び二重控除の調整方法を中心～
外国人会社合算税制における二重課税問題の考察
－外国人会社株式の譲渡を中心に－
法人税法における法人による公益活動への支出と非対価性－アメリカとの比較から－
キャブティブと外国子会社合算税制 保護セール保険会社を中心
受益者変動権が付された信託の課税問題 贈与税課税を中心に
外國法人による簡接譲渡と事業譲渡類似課税



税理・財務コースでは、修士論文を外部の懇親論文等に応募することを推奨しており、高い評価を受けています。

### 〔MPED〕

Research on the determinants of intra-firm trade & arm's length trade of TNCs between China and US: an empirical analysis on macro factors
Promotion of Small and Medium Enterprise Financing in Myanmar
What Makes Small Firms Grow? Finance, Human Capital, Technical Assistance, and Business Associations in Myanmar
Empirical Study on Relationship between Innovation and Income Inequality
Provision of labor contracts after the Labor Code 2012: analysis of firm-level data in Vietnam
Development of government domestic debt of the Kyrgyz Republic
Relationship between International trade and industrial policy in Tajikistan
Influence of the International Tax Agreements on the Investment Climate and Economic Determinants of Kyrgyzstan
Population Aging and Effectiveness of Macro-Policy in Japan
The rise of pension system
Climate Change Impact and Adaptation Policy Effectiveness on Rice Production in Indonesia
The Effect of Tax Rate Differences on Foreign Direct Investment in Indonesia: Bilateral Analysis
The No-demand and the Discouraged Firms: Characterizing the Nonparticipants of Indonesian Credit Market
Fiscal Decentralization and Regional Economic Growth in Indonesia

公益財団法人 日本税務研究センター・日税研究賞 2005年度2名/2006年度1名/2009年度1名/2010年度1名/2020年度1名
公益財団法人 納稅協会連合会・「税に関する論文」 2008年度 优秀賞1名、奨励賞1名/2014年度 納稅協会特別賞1名
公益財団法人 稽査資料館主催の稽査資料館奨励賞 2009年度1名/2012年度3名/2013年度1名/2014年度2名/2015年度1名/2021年度2名
一般財団法人 新日本法規財団 奨励賞 2016年度 会計・税制分野優秀賞1名/2021年度 会計・税制分野最優秀賞1名

## 博士課程前期課程(修士)



在学生

2022年度1月現在在学  
三木 泉佳

### 研究や学会発表を通じて培った専門性を活かし ハード・ソフト一体のインフラ整備に携わりたい

私は、地域経済開発に関する専門性を深めることはもちろんですが、社会調査手法や分析手法、論文作成手法等を身に着けたいと思い、本研究科に進学しました。

大学院は、自分の研究を発表する機会がたくさんあり、学んだ知識やスキルを実践的に身に着けていくことができる環境であると実感しています。その例として、学会発表があります。私は1回生時に2回学会発表を行いました。授業で学んだ基礎知識や調査・分析手法をベースに研究を進め、担当教授にフィードバックを頂きながら、論文を執筆・発表しました。そして、発表後は振り返りを行い、足りない点や必要なスキルを明確化した上で授業等での学びに取り組むようにしました。その結果、2回目の発表である日本地域学会の年次大会では、「優秀発表賞」を受賞することもできました。他にも、授業やゼミでも発表する場は多くあります。さらに、助成金制度を活用し自主的に研究会を立ち上げ、メンバーと一緒に研究に取り組むことも行いました。このように、大学院では座学と実践をスピーディーに繰り返すことのできる環境が非常に整っていると感じています。

現在は、社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを社会資本として捉えた概念である「ソーシャル・キャピタル」に着目し、その形成手段を探るために地域の農業事業を事例にとり研究を進めています。修了後は、社会資本整備に関わる企業に就職する予定です。これまでに培った専門性やスキルを活かして、ハードとソフトが一体となったインフラ整備に携わりたいと考えています。



修了生

2020年3月博士課程前期課程修了  
(現職:大手税理士法人)  
国本 健吾

### 法律・経済両面から学べる環境で得た「知」が 大企業の税務に関わる今の支えになっている

税理・財務コースでは、法律的観点と経済学的観点の両方から、税について学ぶことができます。講義のなかで、これらに関する基礎的な理解を深め、演習のなかで、日々の興味関心に応じて税法・税制に関する研究テーマを決定し、修士論文の作成を進めていくことになります。これら講義や演習といった研究活動を通じて、「資料収集→資料理解及び分析→要點整理→他者への報告(プレゼンテーション)」という一連の知的取組みを日常的に行いました。

先生方が院生に真摯に向き合ってくださるため、講義や演習はハイレベルでした。なお、税法の中でも応用的な領域とされる国際課税について学ぶ機会が多く提供されているのは本コースの特徴の一つだと思います。日々の講義や演習をこなすのは容易ではありませんでしたが、一生懸命に取り組む同級生と切磋琢磨し、研究に熱中することができました。また、税に関する文献やデータベースが充実しており、研究上、不自由を感じたことはありませんでした。このような恵まれた環境のおかげもあり、私の修士論文は「日税研究賞」という権威ある賞を受賞することができました。日税研究賞受賞の連絡を頂いた時は、飛び上がるほど嬉しかったです。

さらに、研究活動を通じて、①専門知識を身につけるためのリサーチ力、②これを人に伝えるための要約力・文章力・プレゼン力が身に着きました。修了後、私は主に金融機関を始めとする大企業や、外資系企業の税務に携わっていますが、研究活動を通じて培ったこれらの能力は、知的専門職として働くにあたって、大きな支えになっていると実感しています。周りの修了生も、「知」を強みとして、それぞれの場所で活躍しています。

## 博士課程後期課程(博士)



在学生

2022年度1月現在在学  
AREFEEN Saiful

### 研究や各種セミナーを通じた他の留学生や 日本人学生との交流も貴重な経験に

As a PhD student, I started my Graduate School of Economics journey in September 2019. The institution provides an excellent research environment with numerous prominent faculty members with extensive research expertise. I was fortunate to have their invaluable counsel and support during my studies. I enjoy attending my PhD supervisor's weekly lab meeting with other lab mates, including the senior researcher and the young researchers. This meeting provides an excellent opportunity to discuss our thoughts and research findings while receiving valuable feedback and advice from the supervisor. The graduate school offers a full pledge scholarship such as MEXT and JISPA (IMF). I am grateful for the JISPA scholarship. I have obtained research funding from JISPA, Ritsumeikan University, and my supervisor's research fund for scholarly publications and presentations at international and domestic conferences. The graduate school organizes a series of in-house seminars, which are beneficial in understanding our research gap and improving our research abilities. We offer a research lab that is serene and quiet, with outstanding research and customized study resources. The lab setting is pleasant and joyful with foreign and Japanese students, as we can exchange our research and cultures. The kind graduate school personnel makes our studies in Japan a breeze. The graduate school organizes special excursions to prominent Japanese firms such as Toyota, TOTO, and Panasonic, which are one-of-a-kind and unforgettable experiences to have while studying in Japan.



修了生

2018年9月博士課程後期課程修了  
(現職:松本大学総合経営学部講師)  
岡崎 滋樹

### 充実のサポートのおかげで海外調査を実施。 「独創性」が大きな成果につながる

私は、2018年9月に博士課程後期課程を修了し、現在は長野県の松本大学総合経営学部で教鞭を執っています。専門は台湾経済史で、研究科在籍中は毎日のように図書館に通い、研究に没頭していました。研究科在籍中は、本当に多くの先生方と職員の皆様、そして同級生と留学生にお世話になり、いつも親切に接して頂きました。とくに先生方からは、論文執筆や学会発表等で常に貴重なアドバイスを頂き、学者として大きく成長できたと思います。

また、立命館大学経済学研究科は、国内外の実地調査や研究活動に対する助成金など、学内のサポート体制が非常に充実しています。こうした助成制度を活用した多様な研究活動が可能であり、私も中国(上海市)や台湾(台北市)等で長期間の史料調査を行い、貴重史料を用いた論文を執筆することができました。

大学院で学ぶ上で大切なことは「独創性」だと思います。小さなきっかけが大きな成果に繋がることは多々あり、そうしたきっかけが生み出す意外性に期待しつつ、学内の資源を有効に活用して、充実した研究生活を送って頂ければと思います。そして、共に励ましあい、支えあう同級生や留学生も多いので、こうした繋がりを通じて多様な領域を拓き、貴重な研究キャリアを築いていって下さい。

## 博士課程前期過程の主な進路・就職先(順不同)

パナソニック／ナブテスコ／ソニー／パナソニック電工／ユーシン精機／近畿労働金庫／岩井コスモ証券／シャープ／AIC損害保険／カシオ計算機／東芝／三菱UFJインフォメーションテクノロジー／第一生命保険／三菱UFJ銀行／デロイトトーマツ税理士法人／アルプス電気／アネスト岩田／凸版印刷／大和ハウス工業／堀場製作所／KPMG税理士法人／中国新聞社／日本放送協会／オムロン／オリックス／花王／中国銀行(中華人民共和国)／住友電装／日本アイ・ピー・エム・サービス／小学館／SMBC日興証券／バンダイ／みずほインベスタートーズ証券／マクセルホールディングス／ブリヂストンサイクル／日立製作所／京都銀行／日本郵政／矢崎総業／ソニーLSIデザイン／あすか税理士法人／本学・他大学博士課程後期課程進学／都道府県人事委員会

## 研究力の研鑽を積む(博士課程後期課程)

博士課程後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いて行くことができる高い研究力量を備えた研究者を養成します。自らの専門とする分野での先端的研究を行い、学術雑誌への投稿や学会報告などにより研究力の研鑽を積み、博士論文の完成をめざします。

### 修了要件

修了するためには、3年以上在学し、研究演習Ⅰ(2単位)、研究演習Ⅱ(2単位)、研究演習Ⅲ(2単位)、研究演習Ⅳ(2単位)、研究演習Ⅴ(2単位)を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士学位請求論文を提出し、それに基づく博士学位授与審査に合格しなければなりません。

過去の  
博士論文



近年の後期課程修了生の就職先  
(順不同)

愛知学院大学／岩手県立大学／愛媛大学／西安外国语大学(中国)／東海大学／東洋大学／福山大学／松本大学／松山大学／宮崎大学／立命館大学

# 教員および研究テーマ



立命館大学経済学研究科には、総勢約60名の教員が在籍。様々なバックグラウンドをもつ個性豊かな教員がそろっております。

## 青木 芳将 教授

専門分野  
経済政策  
研究テーマ  
● レントサイクリング活動と経済成長  
●個人の異質性と経済成長  
●国際援助と経済発展

## 青野 幸平 教授

専門分野  
ファイナンス、時系列分析、マクロ経済学、金融政策  
研究テーマ  
● 株式収益率の予測可能性に関する時系列分析  
● 金融政策に関する時系列分析  
● 日本の消費と資産価格に関する研究

## 市野 泰和 教授

専門分野  
国際貿易論、応用マクロ経済学  
研究テーマ  
● 貿易からの利益  
● 貿易と多様性  
● マクロ経済学の授業のしかた

## 稻澤 泉 教授

専門分野  
政策過程分析、環境政策学、国際金融  
研究テーマ  
● エネルギー政策形成過程の国際比較分析  
● 環境と開発  
● 国際プロジェクトファイナンス

## 大川 隆夫 教授

専門分野  
応用マクロ経済学  
研究テーマ  
● 勇気ある企業の行動分析・産業政策に関する理論的研究

## 大川 昌幸 特任教授

専門分野  
理論経済学、国際経済学  
研究テーマ  
● 不完全競争下の貿易理論に関する研究

## 大塙 量平 准教授

専門分野  
西洋経済史、近代ドイツ語圏社会経済史、文化・芸術の経済史  
研究テーマ  
● ウィーンにおける舞台芸術の社会経済史  
● 近代ドイツ語圏における消費文化史

## 大野 敦 教授

専門分野  
国政政治経済学、開発学、国政経済学  
研究テーマ  
● フェアトレードと倫理的消費  
● 開発の国政政治経済学

## 大橋 陽 教授

専門分野  
現代アメリカ経済史、アメリカ経済論、政治経済学  
研究テーマ  
● 現代アメリカ消費者信用史  
● アメリカ低所得家計の金融的側面に関する研究

## 小田巻 友子 准教授

専門分野  
社会政策  
研究テーマ  
● 福祉サービス供給にみるコ・プロダクション  
● 日本の医療福祉共生協とスウェーデンの親協同組合に関する研究

## 柿中 真 教授

専門分野  
公共政策、金融システム、国際経済学  
研究テーマ  
● 開発途上国における公共政策分析  
● 開発途上国における金融市场分析

## 金丸 裕一 教授

専門分野  
近現代中国史、東アジア経済史、アジアの神学  
研究テーマ  
● 中国電力産業史の研究  
● 近現代日中韓史の研究  
● 東亜キリスト教史の研究

## 川岸 岳人 准教授

専門分野  
マクロ経済学、勤勉マクロ理論  
研究テーマ  
● 内生的な健康状態を伴う勤勉マクロ分析

## 河音 琢郎 教授

専門分野  
財政学、租税論  
研究テーマ  
● 1980年代以降のアメリカ連邦財政構造、予算編成過程の構造変化と財政再建の関係把握に関する研究

## 紀國 洋 教授

専門分野  
産業組織論  
研究テーマ  
● 廃棄物処理政策に関する理論的研究  
● 耐久財市場に関する理論的研究

## 木原 彩夏 准教授

専門分野  
会社法、商法  
研究テーマ  
● 現代アメリカ消費者信用史  
● 企業会社における株主の経営への参与のあり方  
● 生命保険契約における保険金支払免費に関する研究

## 小田巻 友子 准教授

専門分野  
家政・生活一般、地域研究、経済統計  
研究テーマ  
● 政府統計の二次利用におけるミクロデータ分析

## 黒川 清登 教授

専門分野  
開発経済学、地域経済学、防災経済学  
研究テーマ  
● 地域セクターによる途上国経済の活性化  
● 都市と農村の経済開発  
● 開発途上国における防災と経済発展

## 佐藤 亘利 特任教授

専門分野  
社会政策論  
研究テーマ  
● 地域医療政策の研究

## 佐野 聖香 教授

専門分野  
農業経済学、開発経済学  
研究テーマ  
● 都市・農村財政・経済の歴史的研究、国際比較  
● 災害復興に関する総合政策的研究

## 篠田 剛 准教授

専門分野  
財政学、租税論  
研究テーマ  
● 経済デジタル化と国際課税  
● 税制競争と課税主権の研究  
● 消費課税の理論と実際

## 後閑 洋一 教授

専門分野  
マクロ経済学、マクロ動力学の理論、経済成長論  
研究テーマ  
● 内生的景気循環理論：  
不決定性と分歧定理

## 島田 幸司 教授

専門分野  
環境政策、行動分析  
研究テーマ  
● 再エネ・省エネの計量分析  
● 気候変動への適応策のフィールド実験

## 申 雪梅 准教授

専門分野  
経済統計学、産業連関分析、財政学、中国経済  
研究テーマ  
● 東アジア地域の付加価値貿易  
● 中国の税制・成長戦略

## 言美 伊知朗 教授

専門分野  
マクロ経済学、国際金融論  
研究テーマ  
● 废棄物処理政策に関する理論的研究  
● 耐久財市場に関する理論的研究

## 笹尾 俊明 教授

専門分野  
環境经济学、廃棄物の経済学、循環経済  
研究テーマ  
● 地域間競争と政治構造に関する理論分析

## 佐藤 隆 教授

専門分野  
社会経済学、経済理論  
研究テーマ  
● 人口の理論  
● 資本主義経済の理論

## 佐藤 亘利 特任教授

専門分野  
社会政策論  
研究テーマ  
● 地域医療政策の研究

## 曹 瑞林 教授

専門分野  
中国経済論  
研究テーマ  
● 中国の経済発展と税制・財政の構造  
● 中国の中央財政と政府間財政関係  
● 中国の基本医療保障とその財政

## 高野 剛 准教授

専門分野  
社会政策  
研究テーマ  
● 金融市場の国際的な連動性  
● 金融・情報通信技術の融合  
● 金融機関の経営戦略

## 新形 敦 教授

専門分野  
国際金融論  
研究テーマ  
● 金融市場の国際的な連動性  
● 金融・情報通信技術の融合  
● 金融機関の経営戦略

## 竹内 あい 准教授

専門分野  
実験経済学、行動経済学  
研究テーマ  
● 経済実験を用いた社会規範の研究

## 高屋 和子 教授

専門分野  
現代中国经济研究  
研究テーマ  
● 中国の持続可能な発展に向けての課題  
● 中国の農業産業化と農村振興  
● 中国の对外投資と経済協力

## 申 雪梅 准教授

専門分野  
経済統計学、産業連関分析、財政学、中国経済  
研究テーマ  
● 東アジア地域の付加価値貿易  
● 中国の税制・成長戦略

## 杉田伸樹 特任教授

専門分野  
日本経済、経済政策  
研究テーマ  
● 地方開発政策  
● 産業集積

## 須佐 大樹 准教授

専門分野  
公共経済学、公共選択論（政治経済学）  
研究テーマ  
● 地域間競争と政治構造に関する理論分析

## 関 麻衣 准教授

専門分野  
開発経済学、実証マクロ計量経済学、教育の経済学、労働経済学  
研究テーマ  
● 労働教育と労働市場に関する計量絏済学の分析（アメリカ・カナダ・エジプト）  
● 教育の認知能力・非認知能力に関するインシグニア評価（パンパラディッシュ）  
● インドラのインバクト評価（インド・モロッコ）

## 曹 瑞林 教授

専門分野  
中国経済論  
研究テーマ  
● 制度・倫理のミクロ行動理論

## 高野 剛 准教授

専門分野  
社会政策  
研究テーマ  
● 金融機関の経営特性に関する実証研究  
● 産業政策に関する実証的研究

## 新形 敦 教授

専門分野  
国際金融論  
研究テーマ  
● 金融市場の国際的な連動性  
● 金融・情報通信技術の融合  
● 金融機関の経営戦略

## 新田 耕平 准教授

専門分野  
実験経済学、行動経済学

## 高屋 良一 教授

専門分野  
経済政策  
研究テーマ  
● 戦略的貿易政策  
● 算占企業の技術選択

## 橋本 貴彦 教授

専門分野  
経済統計学、理論経済学、社会経済学  
研究テーマ  
● 投下労働  
● 生産性及び搾取に関する理論と実証

## 秦 勘 教授

専門分野  
投資理論、行動ファイナンス

## 林 裕明 教授

専門分野  
環境経済学、農業経済学、非市場評価  
研究テーマ  
● 非市場財・資源の経済評価とそれらの最適管理に関する研究

## 寺脇 拓 教授

専門分野  
都市・地域経済学、地域政策、地域科学  
研究テーマ  
● 都市・地域経済と都市・地域政策  
● 中国と日本の都市・地域経済に関する研究

## 德丸 夏歌 准教授

専門分野  
社会経済学、経済哲学、実験経済学  
研究テーマ  
● 制度・倫理のミクロ行動理論

## 中本 悟 特任教授

専門分野  
アメリカ経済論、国際経済論、国際政治経済学  
研究テーマ  
● 金融機関の経営特性に関する実証研究  
● 産業政策に関する実証的研究

## 細谷 亨 准教授

専門分野  
日本経済史  
研究テーマ  
● 貨物復興と高度経済成長の歴史分析  
● 現代日本における地域経済社会と人の移動  
● 戦時中の旧満州国への日本人農業移民

## 堀 一三 教授

専門分野  
契約理論  
研究テーマ  
● 金融機関の経営特性に関する実証研究  
● 産業政策に関する実証的研究

## 山本 敏章 特任教授

専門分野  
近現代ヨーロッパ（とくにドイツ）、社会経済史  
研究テーマ  
● 第二次大戦後ドイツの地域計画と地方自治  
● ヨーロッパにおけるネーションとナショナリズム  
● 1848/49年ドイツ三月革命の研究

## 吉岡 真史 教授

専門分野  
マクロ経済、日本経済論、開発経済学  
研究テーマ  
● マクロ経済の実証分析  
● 日本経済の時系列分析  
● 日本とアジアの経済発展

## 松尾 匠 教授

専門分野  
理説経済学  
研究テーマ  
● マルクスの基本定理  
● マルクス体系の誤外論による読解とそのゲーム論理的解釈  
● 市場社会など、開放社会に整合的な倫理、規範

## LEE Kangkook 教授

専門分野  
マクロ経済学、経済発展論、国際金融論  
研究テーマ  
● 不平等と経済成長のマクロ経済学  
● 金融発展、金融グローバル化、そして所得分配

# 古代の遺跡があるキャンパス



名称 木瓜原(ばけわら)遺跡

場所 びわこ・くさつキャンパス クインズスタジアム地下

調査 キャンパス竣工に先駆け、1990年から1992年にかけて  
発掘調査

びわこ・くさつキャンパス建設を前に、遺跡ほぼ全体の13万平方メートルに及ぶ本格的な発掘調査が行われ、7世紀末～8世紀初頭にかけて製鉄・製陶から梵鐘の鋳造までが行われていた総合生産遺跡であることが判明しました。当時の律令国家によって設置された官営施設であると考えられています。「木瓜原」の名前は遺跡周辺が木瓜の原生林だったことに由来しています。



排水施設 製鉄炉跡、フィゴ(送風装置)跡

びわこ・くさつキャンパス コアステーション1階にも  
遺跡の一部や出土品などが保存されています。



## 歴史・文化・自然あふれるロケーション

経済学研究科は、私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス(BKC)に設置されており、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベイティブ・キャンパスです。古都・京都からもキャンパス最寄り駅までJRで約20分で到着します。



立命館大学大学院 経済学研究科

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

TEL : 077-561-3940 FAX : 077-561-3947

MAIL : gs-ec@st.ritsumei.ac.jp <http://www.ritsumei.ac.jp/gsec/>